

KODAK Gray Scale

C Y M

Kodak
LICENSED PRODUCT

海編全三冊

伊賀参拜

西遊記

新編補

U.S.A. へ 参 拜

香水補綴
圓貞画



13
3086
1

9 10 1 2 3 4 5 6 7 8 9 20 1 2 3 4 5 6 7 8 9 30



外題曲多回巻

初編上

48

~13

3086

1-10

特
^13
3086
1

為永塔水作

新增補西国奇談

秋川國定堂

初篇 上冊

喜佐板

そのついでに、昔、五柳亭徳外子、著作の内、西国奇談月の夜神樂と表題するもの前後合巻六冊あり、其首尾全うし、尚續篇を索ね、看官のつりとせん、余も彫板磨滅せし、火、這回再刻をせん、その述作の當世の予、是れ小増補をさし、且、嗣編を綴り、書賈の需小辭を、あそと言ふの作家の物体需、いふ、得風小帆と、西國船小乗、來く、ツイ、あ、あ、あ、請合仕事、硯の海、皮、公、も、筆頭、硯を、あ、あ、あ、後、後を編して、續て高覽、入る、あ、あ、あ、

安政三稔丙辰初春

發市

為永

春水誌

西国新巻







赤松
妖齋

朝日丸の
船頭
船右門



悪漢
柴六

干潟
磯魚

西国奇談

四十四 紀本

とらふ事
ホカキをい
つふふふふ
らみあはし
まらあはし
あまはし
つひかなあ
くをあつ
かろふ事
果



宗
まらあはし
あまはし
つひかなあ
くをあつ
かろふ事
果
まらあはし
あまはし
つひかなあ
くをあつ
かろふ事
果

とらふ事
ホカキをい
つふふふふ
らみあはし
まらあはし
あまはし
つひかなあ
くをあつ
かろふ事
果

とらふ事
ホカキをい
つふふふふ
らみあはし
まらあはし
あまはし
つひかなあ
くをあつ
かろふ事
果



とらふ事
ホカキをい
つふふふふ
らみあはし
まらあはし
あまはし
つひかなあ
くをあつ
かろふ事
果

百四十四

ついでに源氏と平氏の戦い...
あつたに源氏と平氏の戦い...
ついでに源氏と平氏の戦い...
あつたに源氏と平氏の戦い...

ついでに源氏と平氏の戦い...
あつたに源氏と平氏の戦い...
ついでに源氏と平氏の戦い...
あつたに源氏と平氏の戦い...

ついでに源氏と平氏の戦い...
あつたに源氏と平氏の戦い...
ついでに源氏と平氏の戦い...
あつたに源氏と平氏の戦い...

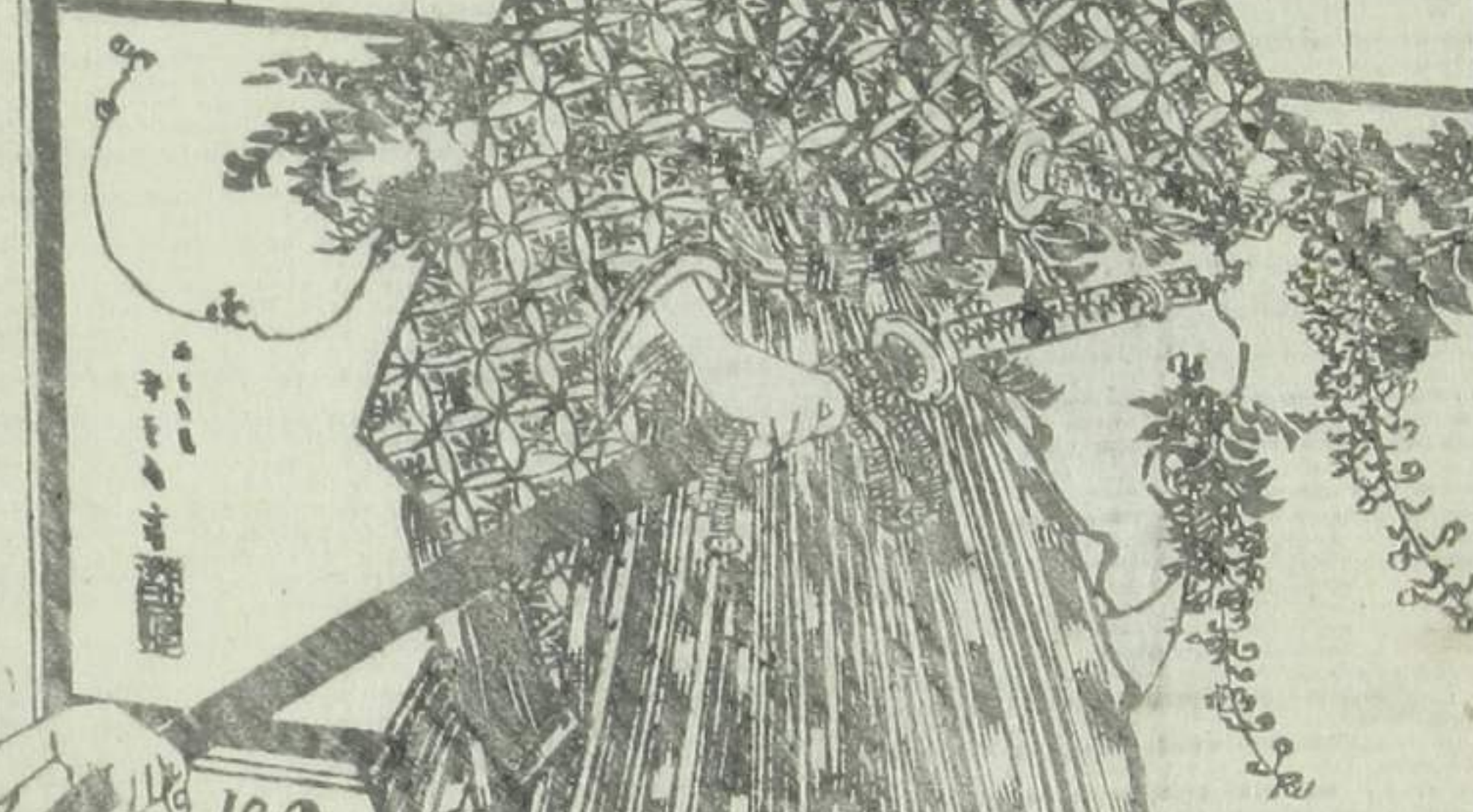


ついでに源氏と平氏の戦い...
あつたに源氏と平氏の戦い...
ついでに源氏と平氏の戦い...
あつたに源氏と平氏の戦い...

ついでに源氏と平氏の戦い...
あつたに源氏と平氏の戦い...
ついでに源氏と平氏の戦い...
あつたに源氏と平氏の戦い...

ついでに源氏と平氏の戦い...
あつたに源氏と平氏の戦い...
ついでに源氏と平氏の戦い...
あつたに源氏と平氏の戦い...

春の風は暖かき
花の匂は清き
鳥の聲は響き
水の流れは静き
山の色は蒼き
空の色は青き
雲の色は白き
霞の色は淡き
雪の色は白き
氷の色は青き



春の風は暖かき
花の匂は清き
鳥の聲は響き
水の流れは静き
山の色は蒼き
空の色は青き
雲の色は白き
霞の色は淡き
雪の色は白き
氷の色は青き

春の風は暖かき
花の匂は清き
鳥の聲は響き
水の流れは静き
山の色は蒼き
空の色は青き
雲の色は白き
霞の色は淡き
雪の色は白き
氷の色は青き



春の風は暖かき
花の匂は清き
鳥の聲は響き
水の流れは静き
山の色は蒼き
空の色は青き
雲の色は白き
霞の色は淡き
雪の色は白き
氷の色は青き



春の風は暖かき
花の匂は清き
鳥の聲は響き
水の流れは静き
山の色は蒼き
空の色は青き
雲の色は白き
霞の色は淡き
雪の色は白き
氷の色は青き



國貞画 春水補綴



西國

奇談

春水補綴

國貞画

根源實紫新刻概畧

作者 柳亭種彦

十編(工面次)の好計と叫び、重相又お伏さんとすると向杉が忠義の
 のころ工面次が普婚と促し、又方便の裏でかれ暗小醜婦を
 娶るの一段話説かいつく、向童をいめて残毒とて、給むの一端(十一編)の
 お童が浴室へ、壺井の守袋とるころそのお童、誓する夏と加や
 及、同苦郊の計、あかしの秋風を欺く二段譚で、最巧みめり
 十二編、秋風虚井毒手おらして終、お非命お死するより殺生石の
 一奇談、いしく龍太郎の侍おらして、此間お工面次八重相らうと
 ても説く、いづれお述べ、當年の内お出扱る、とて

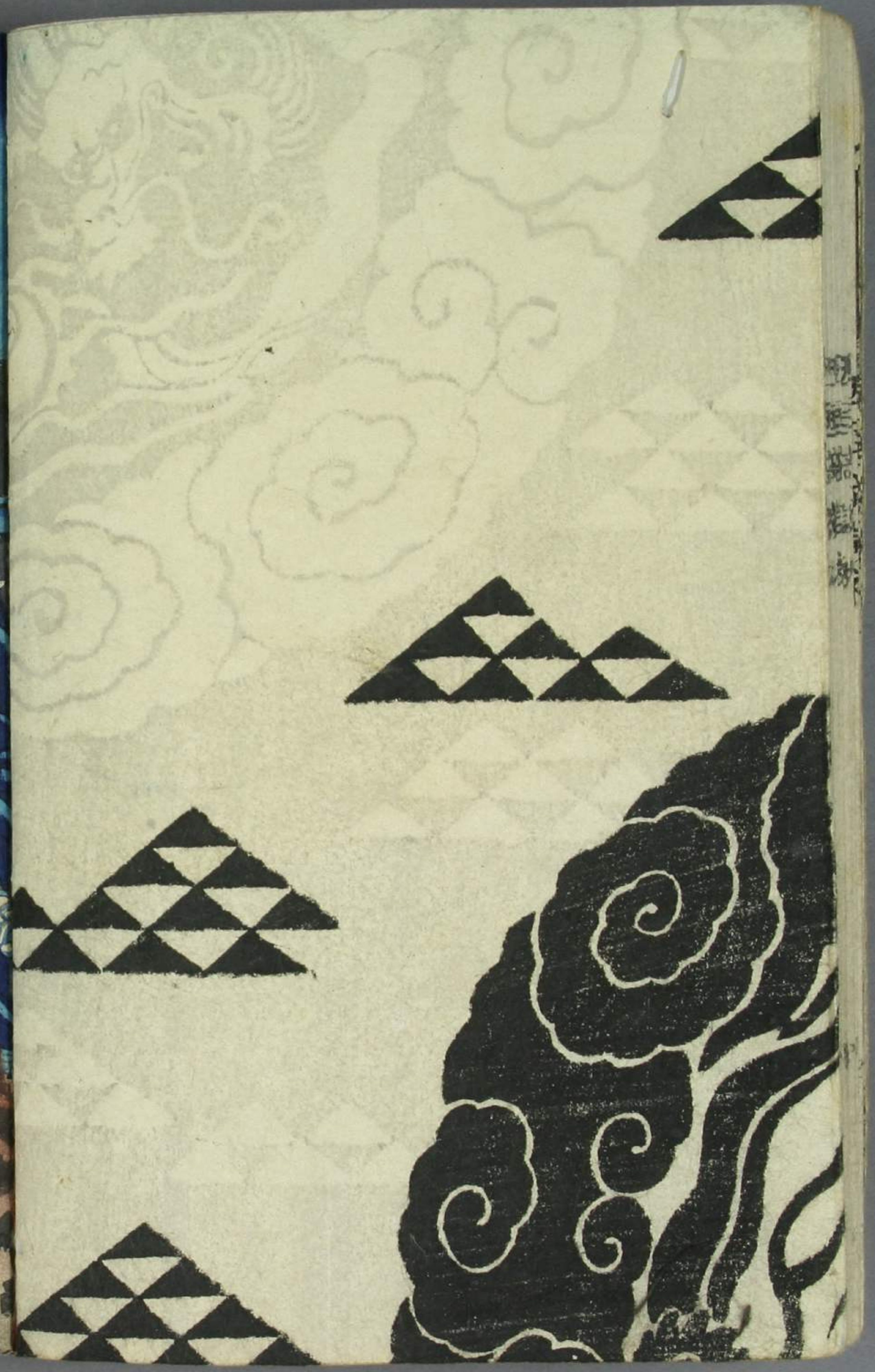
十三編 惟規の北海の危難鳴高他を謀て自らの天の網船拔手兒釣出す花園
 の遊宴お式部が画賛お呪詛の種村心の火性お浮氣の水性お者お妙術お醜婦忽ち
 美人お化、十四編 小鮮の食嗜おい、お水の即今お八幡の宇佐、使言孝の宰府のかり、寐
 夢のおらるる幻の譚お始り、現のおらるる夢中の奇遇の半おて、十五編 心筑紫の夢覚おの
 信お涙お灌、袖の淺お管絃講香炉節お死、お室お本おら、飲われ、又悲お式部、竟の談お終る

新增補西國奇談

為永春水補綴
一壽齋國貞画

初編下

芝神明前
喜鶴堂





四回下段

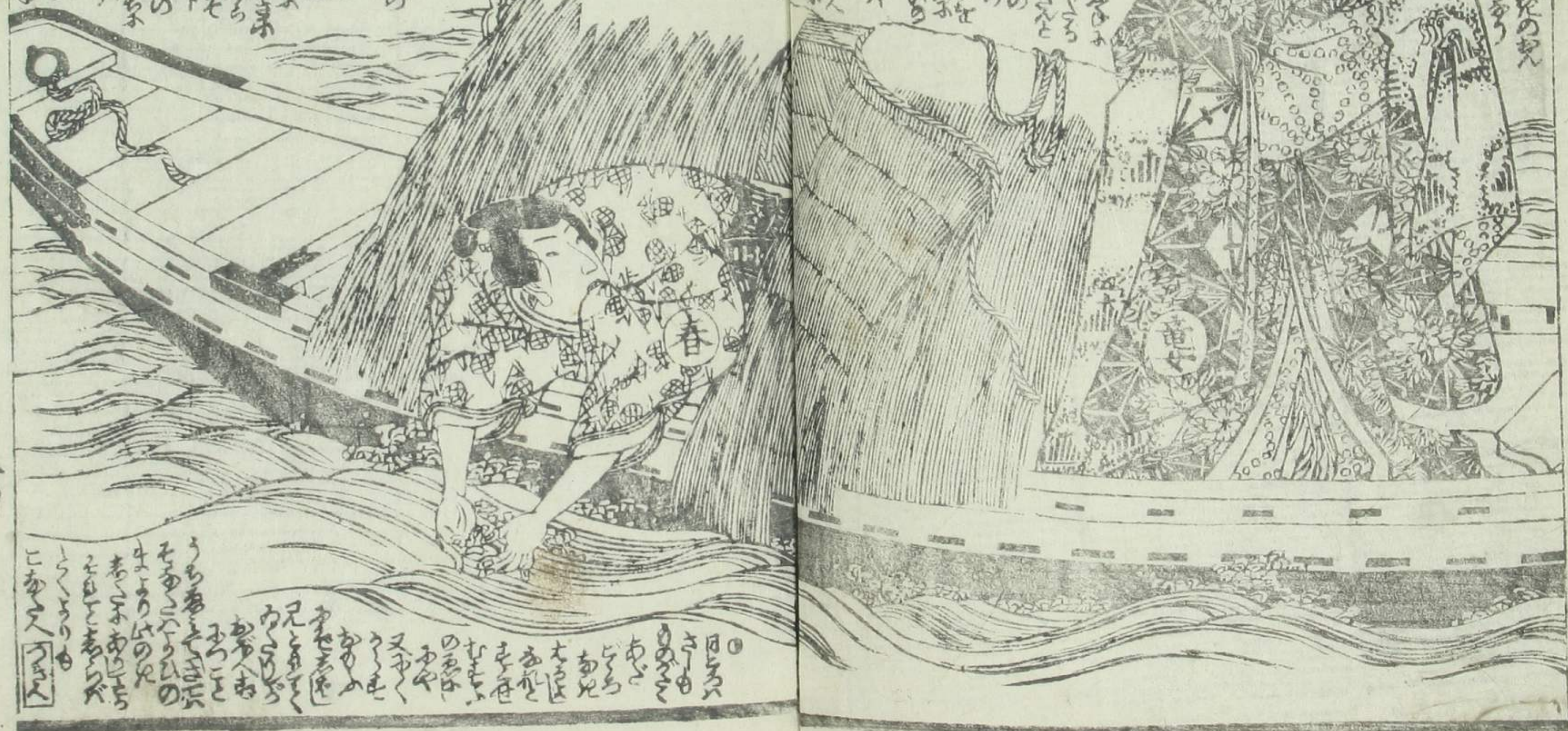
Handwritten text in a cursive script, likely a chapter heading or introductory text, located at the top of the left page.



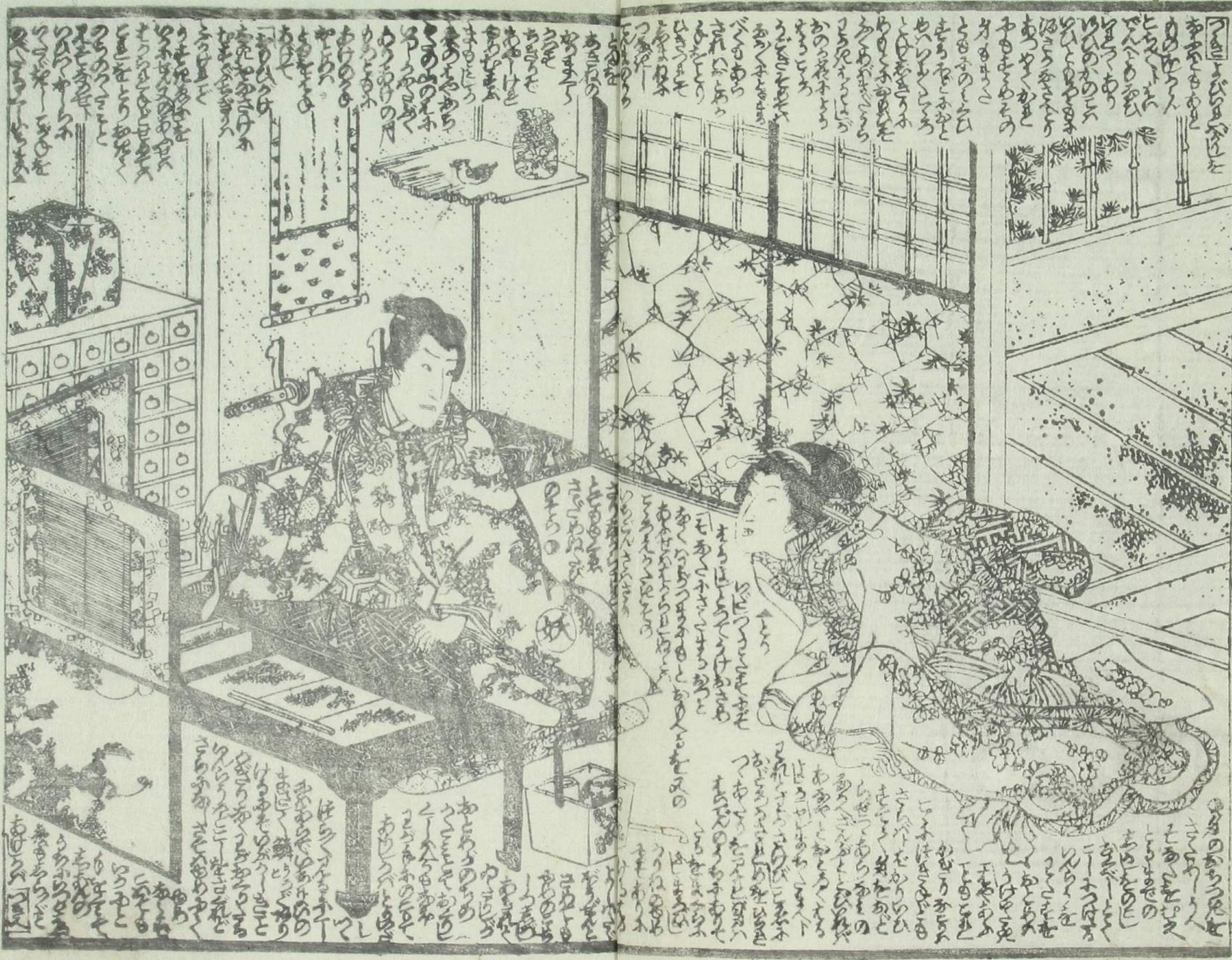
五回下段

Handwritten text in a cursive script, likely a chapter heading or introductory text, located at the top of the right page.

Vertical columns of handwritten Japanese text, likely a play script, located at the top of both pages.



Horizontal columns of handwritten Japanese text at the bottom of the pages, including a small boxed character 'つ'.





此の如きものありしは
 昔の物語に記されし
 ことなりけり
 今もまた
 見ゆべきものなり
 人の心は
 昔と変わらぬ
 ことなりけり
 人の心は
 昔と変わらぬ
 ことなりけり

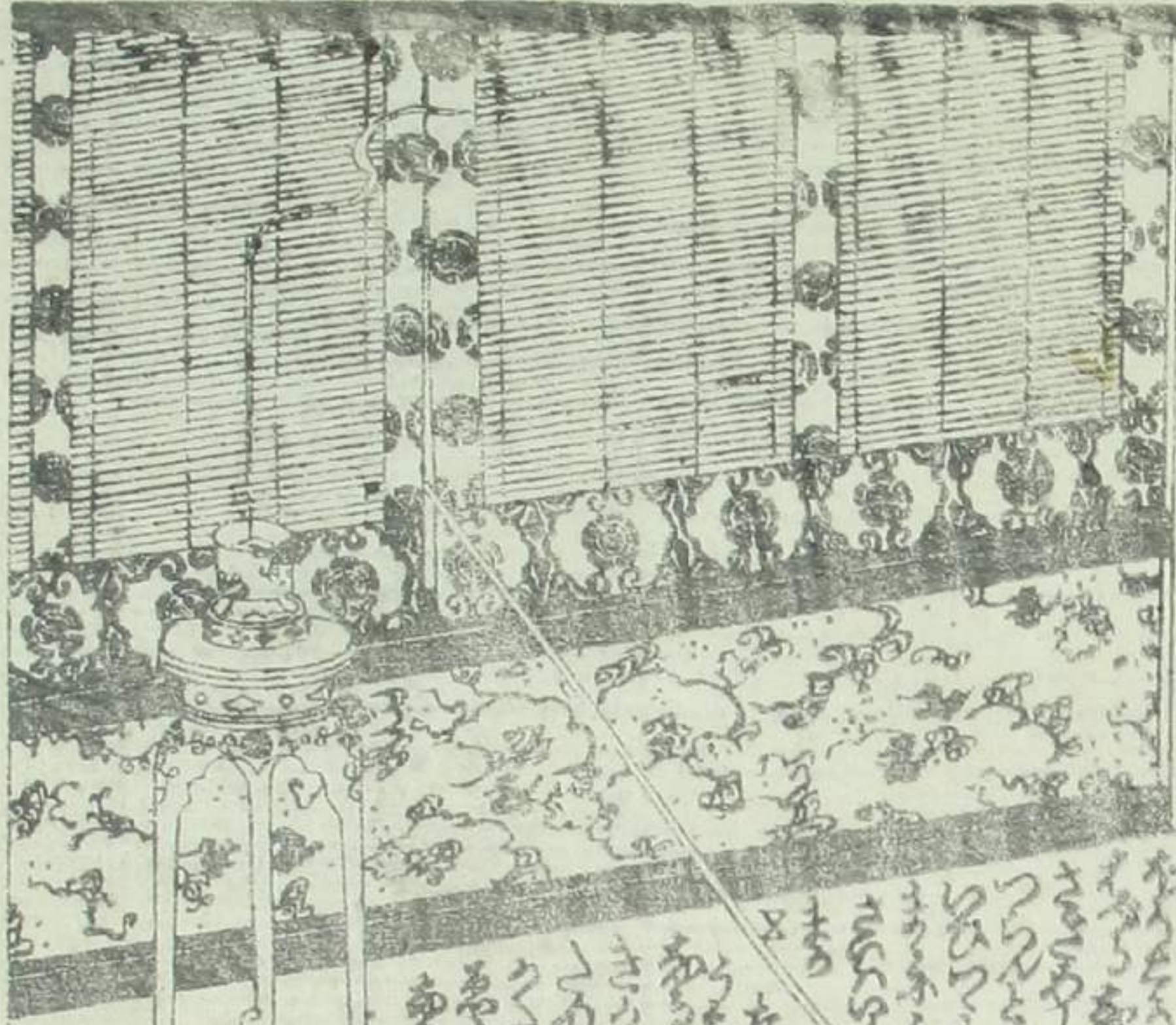
人の心は
 昔と変わらぬ
 ことなりけり
 人の心は
 昔と変わらぬ
 ことなりけり
 人の心は
 昔と変わらぬ
 ことなりけり



人の心は
 昔と変わらぬ
 ことなりけり
 人の心は
 昔と変わらぬ
 ことなりけり
 人の心は
 昔と変わらぬ
 ことなりけり

人の心は
 昔と変わらぬ
 ことなりけり
 人の心は
 昔と変わらぬ
 ことなりけり
 人の心は
 昔と変わらぬ
 ことなりけり

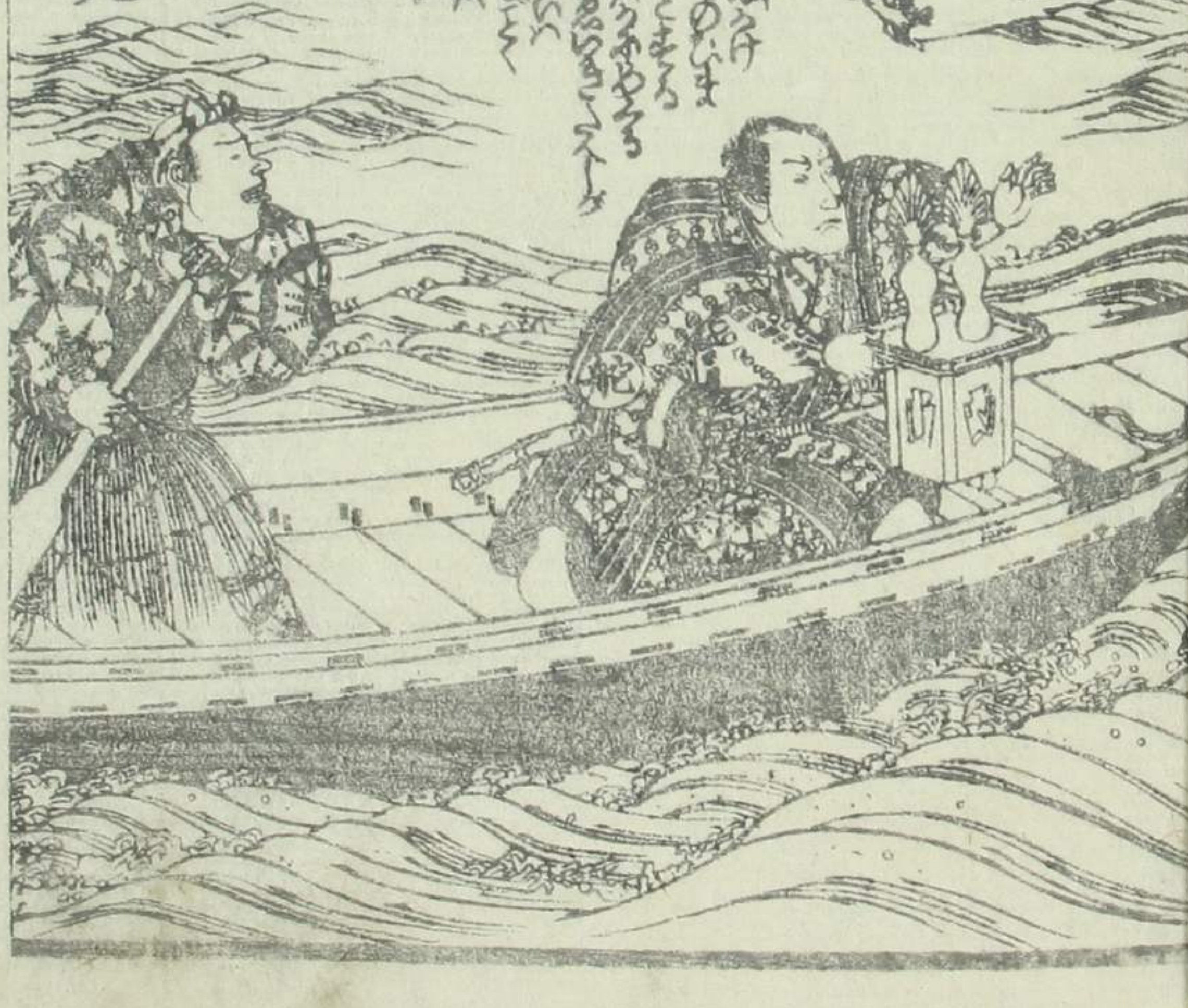
Handwritten text in the top right section of the right page, written in a cursive style.



Handwritten text in the upper right section of the right page, written in a cursive style.



Handwritten text in the upper left section of the left page, written in a cursive style.



Vertical text on the left margin of the left page.

萬延二年酉新年鐫目錄

根源實紫

十四編 十五編 十六編

柳亭種彦作
一壽齋國貞畫

娘庭訓金鷄

五編 大尾同

畫作

琴聲美人錄

十七編 十八編 十九編

山東京山作
歌川國貞畫

花兄弟陸奧名所

二編 初編

柳亭種彦作
同畫

新增補西國奇談

十一編 十二編 十三編

為永春水作
歌川國貞畫

地本繪草紙團扇問屋

芝神明前三島町

佐野屋喜兵衛板



為永春水補綴

一壽齋國貞畫

新増補
西國奇談



二編上





西國奇談一編序

辰の春 爲永春水誌

毎歳の節分此厄拂が爬觸と西の海と言ふ事あり其西國の奇談をバ追難の豆と拾ひ輯て例の戯墨小のせしつと奇とまる所へ更にあく蛇不足を添やうが如に作者が浅智の杜撰も鬼の外と棄るる。アラ目出度の大尾までめろくお需め遊ばさ書肆が廊の福内その年の夜を混雜し机も毛穎を搔攪く西の海編く這策子の爰の寸楮へきりりと序を。

肥七

新増補

西國

奇談

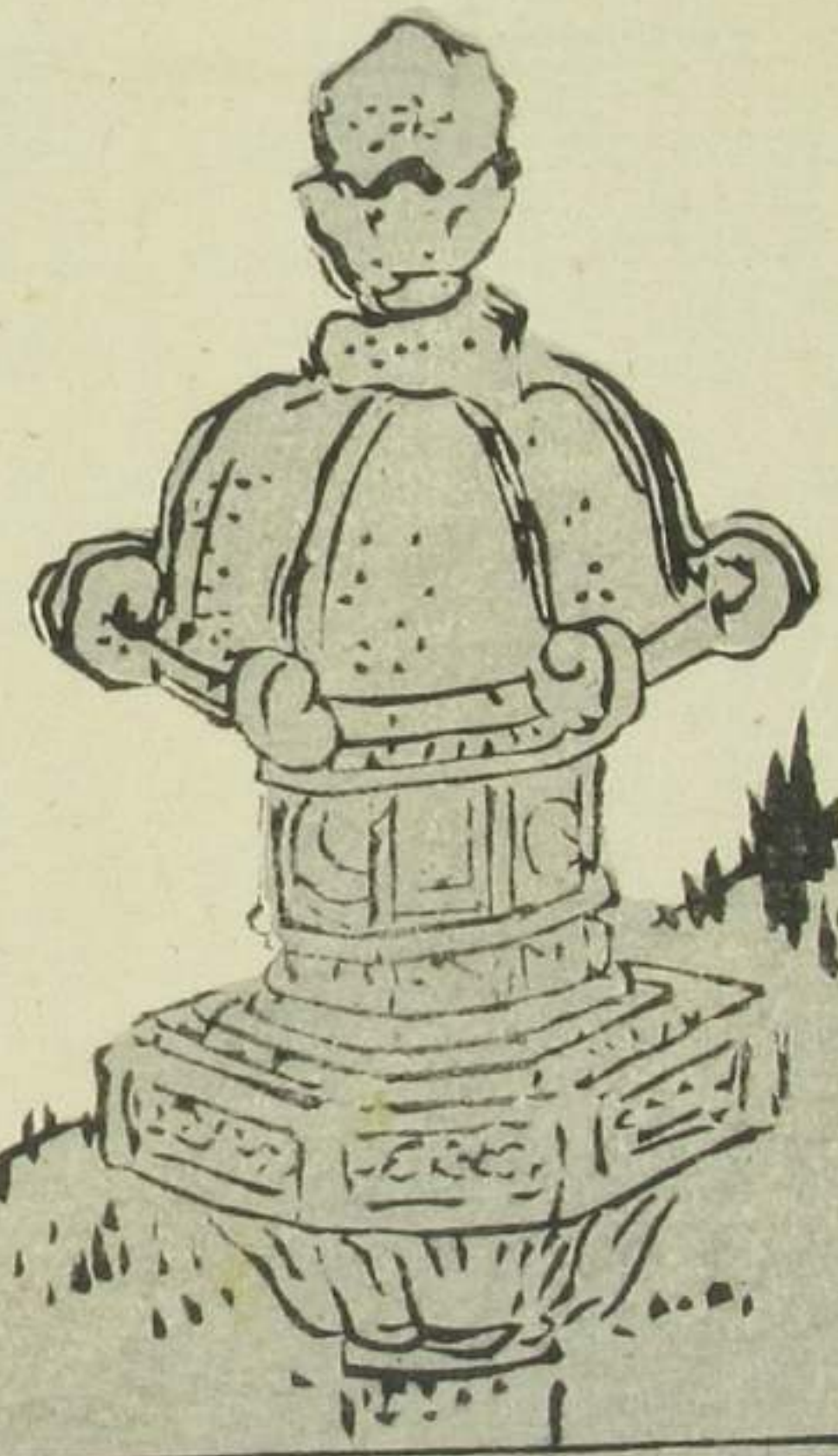
卷之二

國貞重

二編上卷

佐野

と板







不破戸
新次郎

三軒屋の
庄官の
子息

後小松
法師
凍田
檢校



孝子龍太郎
后小松須家の
忠臣木村
龍太郎
於春

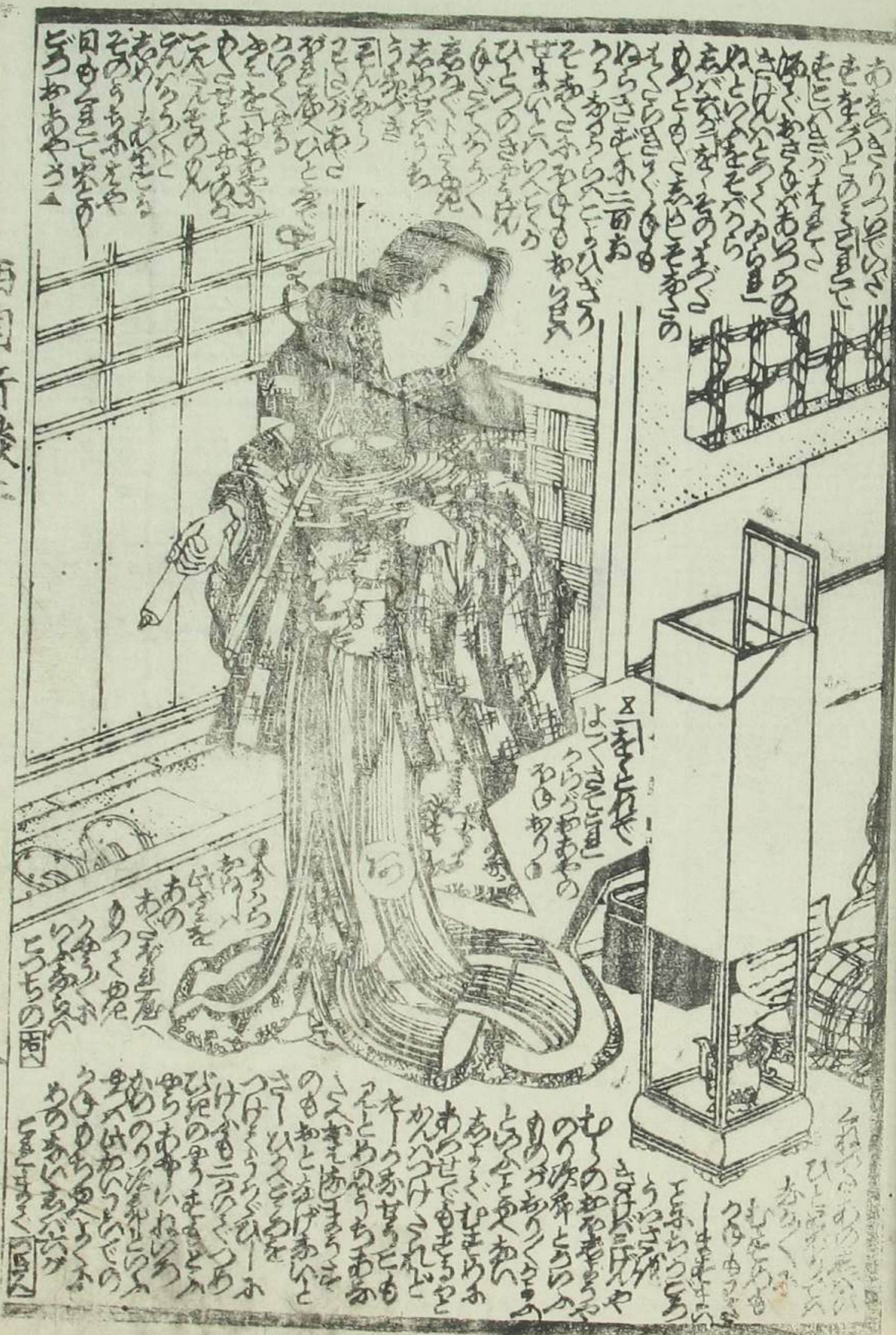
子次郎
兵次郎

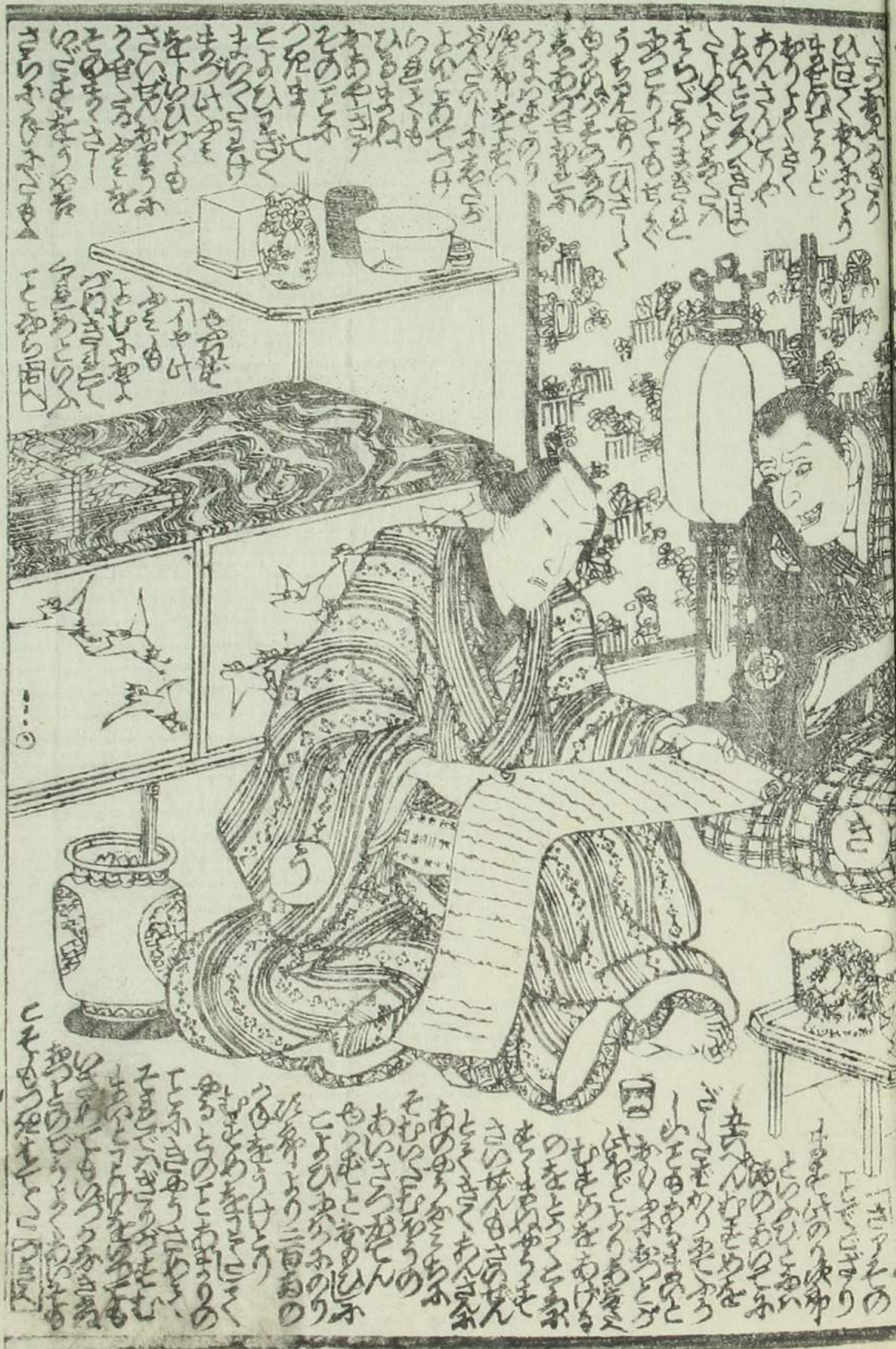
Handwritten text in vertical columns, likely a play script, surrounding the illustration on the right page.



Handwritten text in vertical columns, likely a play script, surrounding the illustration on the left page.



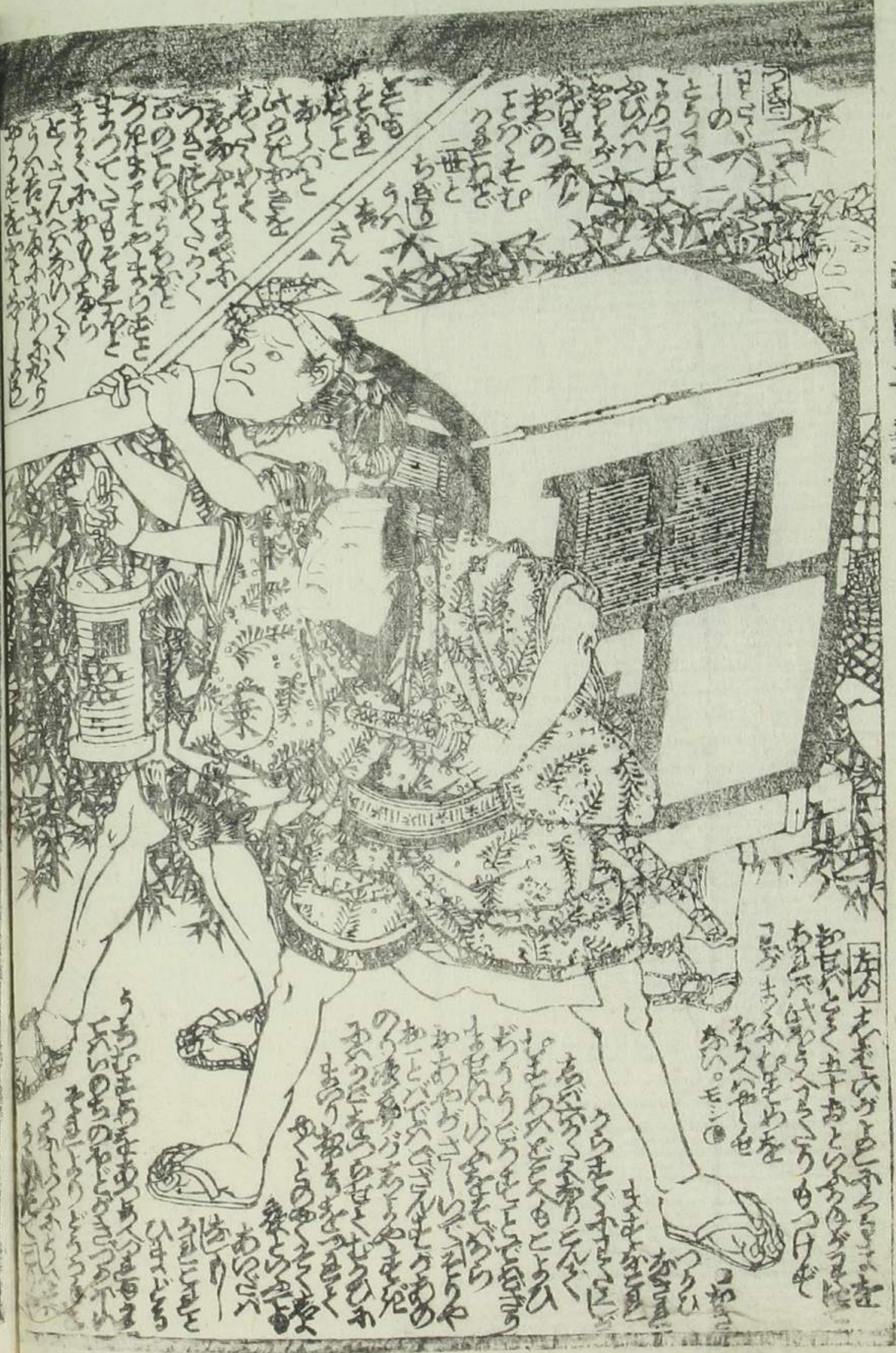




西国并後二



西国并後二



國貞画春水補綴



西国

奇談

春水補綴

國貞画

根源實紫新刻概畧

作者 柳亭種彦

十三編 惟規の北海の危難鳴高他を謀て自かつ天の綱船拔手兒釣出す花園の遊宴ふ式部が画賛へ呪詛の種村心の火性ふ浮氣の水性者姉術は醜婦忽ち美人と化す十四編 小鮮の食嗜ふい水水の即今これも八幡の宇依良宣孝の幸府のかり疾夢のまきる幻の譚み始り現のやま夢中の奇鬼の半はて十五編 筑紫の夢覚て於の信濃と灌ぐ袖の淺代管絃講香炉節ふ死に害留ふかや敵わら悲泣部を免の談は枯る

十編 工面次姉計と知り重相又伏まんとする何杉忠義のりころ工面次只管婚と促し及方便の裏とかれ暗小醜婦を娶るの一段話説かいつく何童をて残毒とこ一舎むの一端十編の

か童が浴室あり虚井の守袋とるそのおれ誓うまるとかて及同苦女の計ありかの秋風を敷くの一段譚で最巧みぬり十二編 秋風虚井毒手小ゆりて終に非命の死をり殺生石の奇談のい龍太郎の侍ふいり此間工面次八重相らるるても説く引つたお連る當年の内不出板るる



秀水補綴

國貞畫

牛麴曲之國貞

二編下





The illustration shows a boat on water with several figures inside. The boat is simple, with a thatched roof and a small cabin. The water is represented by simple wavy lines.

新 垣 補 國 文 魚
 西 國
 春 水
 二 魚 人
 下 忍 色
 喜 鶴 堂





Handwritten text in vertical columns at the top of the left page, likely serving as a title or introductory text for the scene below.



Handwritten text in vertical columns at the bottom of the left page, providing commentary or dialogue related to the illustration.

Handwritten text in vertical columns at the top of the right page, likely serving as a title or introductory text for the scene below.



Handwritten text in vertical columns at the bottom of the right page, providing commentary or dialogue related to the illustration.

Vertical text on the left margin of the left page.

Vertical text on the left margin of the left page.

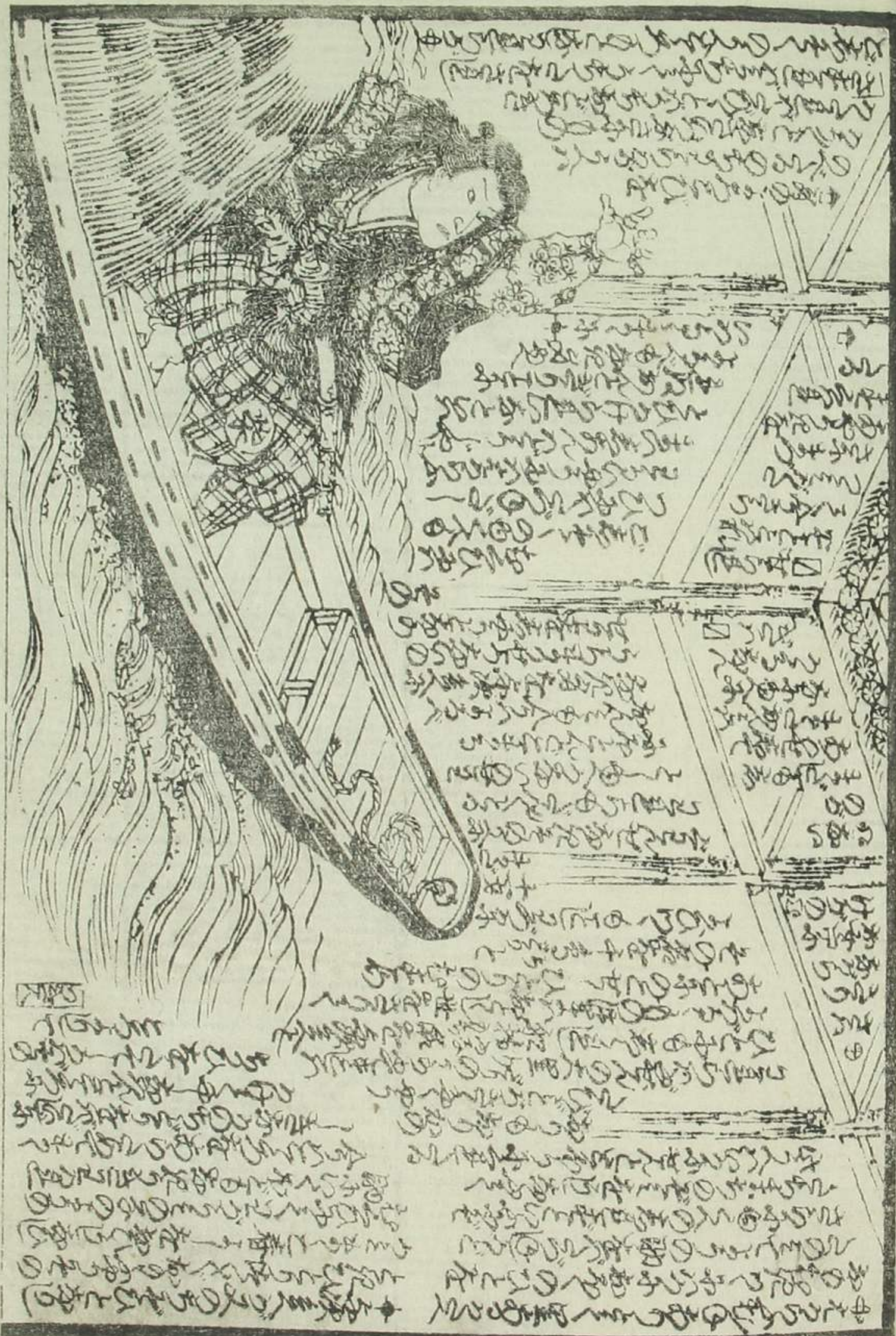
Vertical text on the right margin of the right page.

Vertical text on the right margin of the right page.



HT 111-11

111-11



西四下...



西四下...

十

萬延二年酉新年鵠目録

根源實紫

十四編

柳亭種彦作
一壽齋國貞画

娘庭訓金鶏

十五編

同
同
画作

琴聲美人録

十七編

山東京山作
歌川國貞画

花兄弟陸奥名所

初編

柳亭種彦作
同
画

新增補西國奇談

十一編

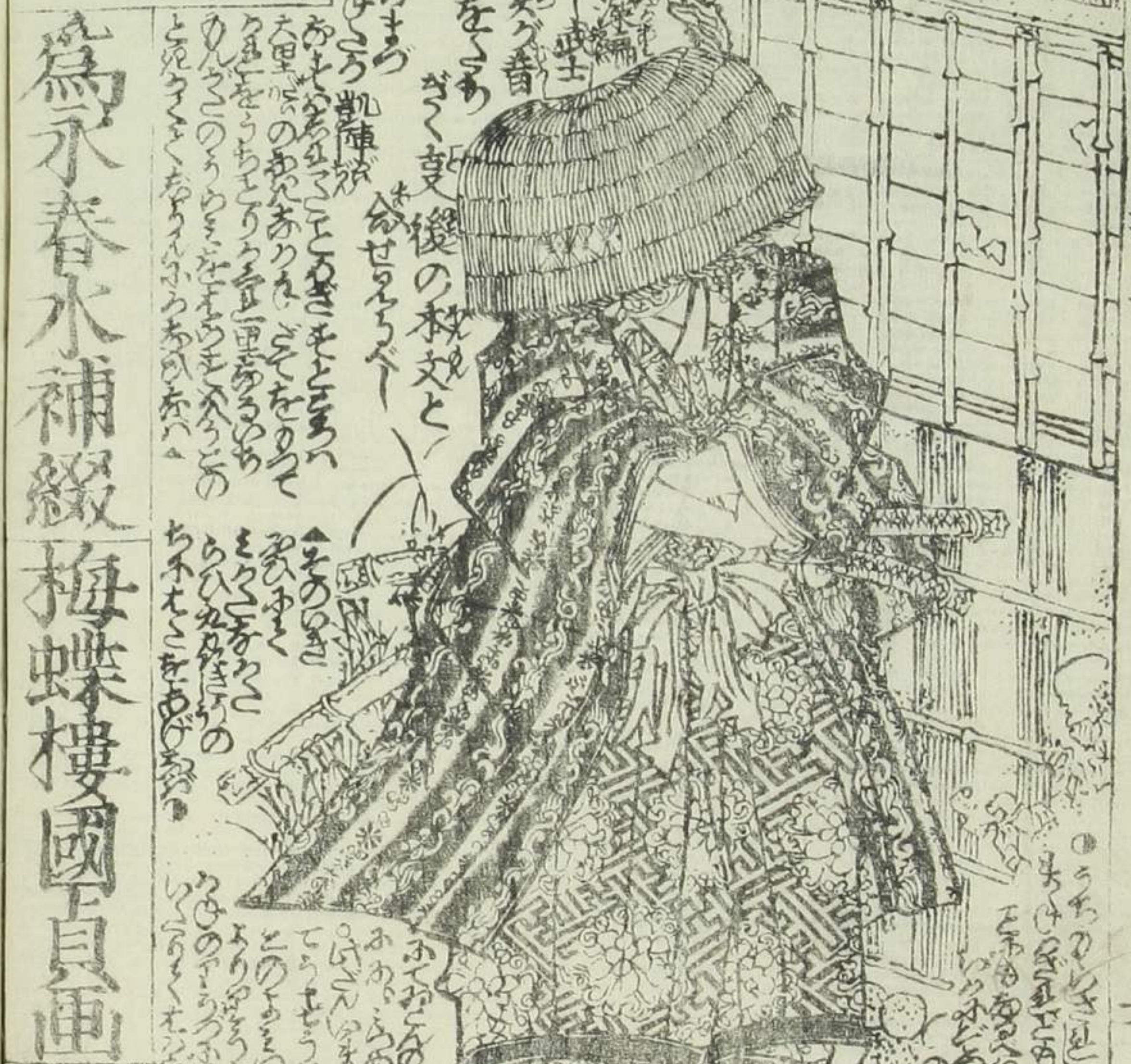
為永春水作
歌川國貞画

地本繪草紙團扇問屋

芝神明前
三島町

佐野屋喜兵衛板

朝半肉丸 一包 百銅
は葉のひらとまをを捕ひ
うめりよはひを捕ひて
身をすくひてまをを
かみあり
對州 津島氏制板



為永春水補綴梅蝶樓國貞画

西國奇談

二十



新物補

香水補鏡

國貞画

西遊記



二編全三冊

沈師畫傳